

仙台市交通事業経営計画 2021-2030（令和3～12年度）

令和5年度実績と評価

1 モニタリング指標について

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が「5類相当」に位置付けられたことから、乗車人員の回復傾向が継続し、財務状況も改善傾向にある。一方で、高速鉄道事業の累積欠損金は拡大しており、計画期間中の単年度損益の黒字転換に向けた経営改善の取組が必要である。

また、市バス重大事故件数及び走行10万kmあたりの有責事故件数が令和4年度を上回っており、研修・訓練等を通じた安全運行に対する意識の醸成が急務である。

その他、地下鉄駅構内の各社フリーWi-Fiサービスの終了に伴う通信設備の撤去により、資産の活用による収入の減少が見られたものの、各指標は全般的に前年度よりも改善傾向にある。

2 個別管理・評価シートに基づく戦略毎の実績と評価について

戦略1「安全・安心の推進」

交通事業者として最大の責務である輸送の安全を確保し、お客さまに安全・安心にご利用いただくため、各種の取組みを実施した。

評価	◎	○	△	×
取組み件数	22	4	1	0

1-1-4「バス停留所の安全性確保」について、優先度に応じた安全対策の実施件数が数値目標を下回ったため、地域や所管警察署との調整を行いながら、改善を図っていく必要がある。【評価△】

1-1-1「安全運行確保のための研修・訓練の実施」について、年間12回実施とした目標は達成したものの、令和5年度の市バス重大事故件数及び10万kmあたりの有責事故件数が令和4年度より増加した（「1 モニタリング指標について」参照）。事故防止に向けた継続的な取組みが必要である。【評価○】

その他、各地下鉄駅への止水板設置が計画通りに完了したほか、南北線新型車両の試験走行を行うなど、安心・安全に向けた取組みを着実に実施した。

戦略2「快適なお客さまサービスの提供」

丁寧な接遇を徹底するとともに、お客さまのご期待やニーズに応える質の高いサービスを提供することにより、お客さまにご満足いただける市バス・地下鉄を目指すための各種取組みを実施した。

評価	◎	○	△	×
取組み件数	16	5	1	0

2-2-3「バスや地下鉄におけるWi-Fiサービスの提供」について、各キャリアの経営状況悪化により令和5年度末で地下鉄構内でのサービス提供が終了した（「1 モニタリング指標について」参照）。5Gの導入を目指す等、引き続きお客様サービスの向上を目指す必要がある。【評価△】

2-1-5「お客さまの声を大切にした事業運営」について、苦情等の件数が令和4年度を上回ったが、更なるサービスアップに向け、ご意見に対する速やかな対応と業務への反映が求められる。【評価○】

その他、各種サービス向上研修の実施や、市バスの動的データを含むオープンデータの公開に向けた準備、南北線車両更新に合わせた駅ホームの隙間調整材の設置等を実施した。

戦略3「公共交通の利用促進施策との連携」

持続可能な社会を目指すSDGsの実現等に向け、お客さまの多様性や地球環境にも配慮しながらサービスを提供することで、仙台のまちづくりに貢献する市バス・地下鉄を目指すための各種取組みを実施した。

評価	◎	○	△	×
取組み件数	8	1	1	0

3-2-3「観光施策への貢献」のうち、電照式バス停留所英語表記対応について、材料の調達ができなかったこと等により、変更箇所が数値目標に達しなかった。コロナの5類移行によるインバウンド需要の増加に対応できるよう、引き続き多言語対応を進めていく必要がある。【評価△】

その他、仙台市の実施する利便増進に向けた取組み（八木山ラインにおける最大待ち時間の短縮）への協力や、令和5年4月26日～6月18日に開催された「全国都市緑化仙台フェア」の開催に合わせ「仙台MaaS」にて周遊券（デジタルチケット）を販売する等の取組みを行った。

戦略4「持続可能な経営の確保」

将来にわたり、市バス・地下鉄事業を安定的に運営できるよう、経営基盤の強化に資する各種取組みを実施した。

評価	◎	○	△	×
取組み件数	22	7	1	0

4-2-1「安定的な人材確保」について、各種採用試験は計画通りに実施したが、数値目標としている充足率について、バス事業においては目標を下回った。全国的にも大型自動車運転手の確保が困難な状況にあることから、効果的な広報手段や新たな採用枠組みを検討・実施しながら、充足率の確保に取り組んでいく必要がある。【評価△】

4-1-13「バス運転業務の管理の委託のあり方検討」について、委託費用の上昇により経営削減効果が減少傾向にある中、各バス事業者の受託意向調査を行った。人材確保のハードルから受託可能な事業者がおらず、価格競争以外の手法による委託費用抑制を検討する必要がある。【評価○】

令和5年度は「仙台市交通事業経営検討委員会」を設置し、本経営計画の改定に向けた検討に着手した。バス事業においては令和5年4月に便数調整を実施するとともに、令和6年4月のダイヤ改正に向けた調整を行った。その他、大学と連携した学都仙台フリーパスの利用促進広報を行うなど、安定した経営の確保に向け、各種の取組を実施した。